

家畜飼養学特論 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司、谷口信和

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

動物が生命活動・生産活動を維持する上で必要とする栄養素は体内合成で賄いきれない、よってその必要量を飼料に依存して摂取する。要求される栄養素の種類・量は動物種・成長ステージにより異なることは周知であるが、それらの消化・吸収は動物種によって消化器官の特徴があり、異なる。さらに、生産業として捉えた場合の経営方式は状況に応じて変化する。よって、飼料の性質と栄養素の摂取および消化・吸収、さらには経営経済的規程要因について教授する。具体的な内容のひとつとして各学生が対象とする実験動物等を事例として考え、理解を深めることを目的とする。なお、テーマに沿ったフリーディスカッションを主とした方式で行い、トピックス(直近の話題)についても論考する。受講学生においては、講義内容の理解を深め、各自の対象とする動物(家禽)の適正な飼養管理を実践するための基礎知識取得を目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

栄養素 _____ 消化器構造 _____ 栄養素要求量 _____ 維持・成長 _____
 維持管理 _____ 飼料構造 _____ 経営的評価 _____ 食料自給 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	・ 個々の試験対象となる動物の飼養管理に対する意識調査	1~10 回までの講義内容に関しては実験対象動物の飼育管理について意識を高めるべく、各回のテーマを参照しての予習、講義においては教授内容に対する疑問、不明な部分の質問、さらに講義内容を簡潔に取りまとめるレポートの作成を行うことで復習に取組み、講義内容の理解を深める。 11~15回については講義中における質疑・討論をとくに重視した方式をとるから、テキストの事前学習が不可欠である。
2	対象動物(家禽)の成長と栄養要求	・ 飼養標準に基づく栄養管理の理解と解説 消化・吸収の基礎について	
3	蛋白質栄養について	・ 蛋白質の要求理由と動物(家禽)の特性について	
4	エネルギー要求について	・ エネルギーの要求について(栄養素の代謝と関連して)	
5	ビタミン要求について	・ ビタミンの必要性と動物(家禽)の特性について	
6	ミネラル要求について	・ ミネラルの必要性と動物(家禽)の特性について	
7	環境温度と栄養管理(一)	・ 栄養代謝に対する暑熱環境の影響について	
8	環境温度と栄養管理(二)	・ 栄養代謝に対する寒冷環境の影響について	
9	排泄物の処理(一)	・ 固形排泄物(糞・敷料)の処理について	
10	排泄物の処理(二)	・ 液状排泄物(尿・汚水)の処理について	
11	食料消費における畜産物の意義	・ 畜産物(動物性蛋白質の中心)消費の歴史的な位置	
12	畜産物需要の変化	・ 卵・乳から肉への歴史的な変化の意味	
13	家畜飼養と飼料構造	・ 家畜飼養方式の変化に対応した飼料構造の変容	
14	食料自給と畜産の地位	・ 食料自給率と畜産の飼料基盤の関連	
15	今後の畜産と飼養方式	・ 21世紀の畜産物需要の方向と望ましい飼養方式	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

必要に応じて適宜、資料は配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

日本飼養標準（肉用牛・乳牛・豚・家禽）／中央畜産会／最新版

畜産経営学／嶋津 正他編著／文永堂（1984）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートの提出（80点）および口頭試問（20点）による評価。

◆オフィスアワー

祐森： 毎週水曜日の3、4時限目に研究室において質問等を受けつける。

谷口： 毎週月曜日の10:00～11:45に研究室にて相談に応じる。

◆その他受講上の注意事項

特になし。
